

平塚の石仏めぐり

12、北金目・真田編



天徳寺与一堂 観音

北金目・真田の石仏

金目地区の北金目と真田は市の西北に位置し、秦野市に接しています。金目地区は、明治22年に北金目村、南金目村など5ヶ村が合併して金目村になりました。昭和30年4月に大根村真田は同村から分離し、金目村と合併し、更に昭和32年10月に平塚市に合併しました。このマップでは北金目と真田の石仏を紹介します。

北金目の鎮守の北金目神社境内西側に、富士信仰の浅間大神や豊作を祈り感謝する地神塔が祀られています。

弘法大師ゆかりの不動院では、江戸前期の地蔵、珍しい石幢型六地藏庚申塔、3基並んだ宝篋印塔、2基並ぶ廻国塔、大師坐像など見どころの多い石仏に出会えます。

真田の鎮守の真田神社には、大阪で製作された鳥居や関東大震災で倒壊し修復された灯籠などがあります。

天徳寺は曹洞宗で山門に結界石があり、境内には、治承4年(1180)の源頼朝伊豆挙兵の時、石橋山で討死した真田与一を祀る与一堂があります。与一堂の石垣の奉納者名や灯籠型塔の土壇建設協力者名、慈愛あふれる観音像や山王信仰に結びついた庚申塔など興味深い石造物に出会えます。

北金目と真田の道祖神は、全て双体像で8ヶ所に11基祀られています。また、塚越古墳とウッドパークの9基の馬頭観音には、ほとんど施主名があり、共に働いた愛馬への深い思いが感じられます。

石仏知識9. 鳥居

鳥居は、神社などの神域と人間が住む俗界を区画するもので、神域への入口を示す一種の門といえます。

鳥居には様々な様式があります。代表的なものは神明鳥居と明神鳥居です。神明鳥居は上部の横柱が一直線になっています。直線的で素朴な構造で、鳥居の原型と考えられます。明神鳥居は上部の横柱の両端が反りあがっています。神明鳥居に比べると装飾的な様式をしています。

素材も多種多様で、石造りのほか木製、金属製、鉄筋コンクリート製などがあります。古くからあるのは木の鳥居で、伊勢神宮内宮の鳥居に代表されます。江戸時代に入ると石造りの鳥居が本格化してきました。鶴岡八幡宮の一の鳥居は、源頼朝以来その時々の権力者が木の鳥居を寄進してきましたが、江戸時代になると4代将軍家綱が御影石の鳥居を寄進しています。

平塚市内には、石造りの鳥居が75基ほどあります。大半が両端の反りあがった明神鳥居です。造立年代をみると時代をさかのぼるほど少なく、江戸時代のものは4基しかありません。一番古い鳥居は大島の八幡神社のもので天保13年(1842)建立ですが、ほとんどは大正13年以降の鳥居で、大正12年の関東大震災以降に再建されたり、昭和15年の紀元二千六百年を記念して建立されたものが多く見られます。



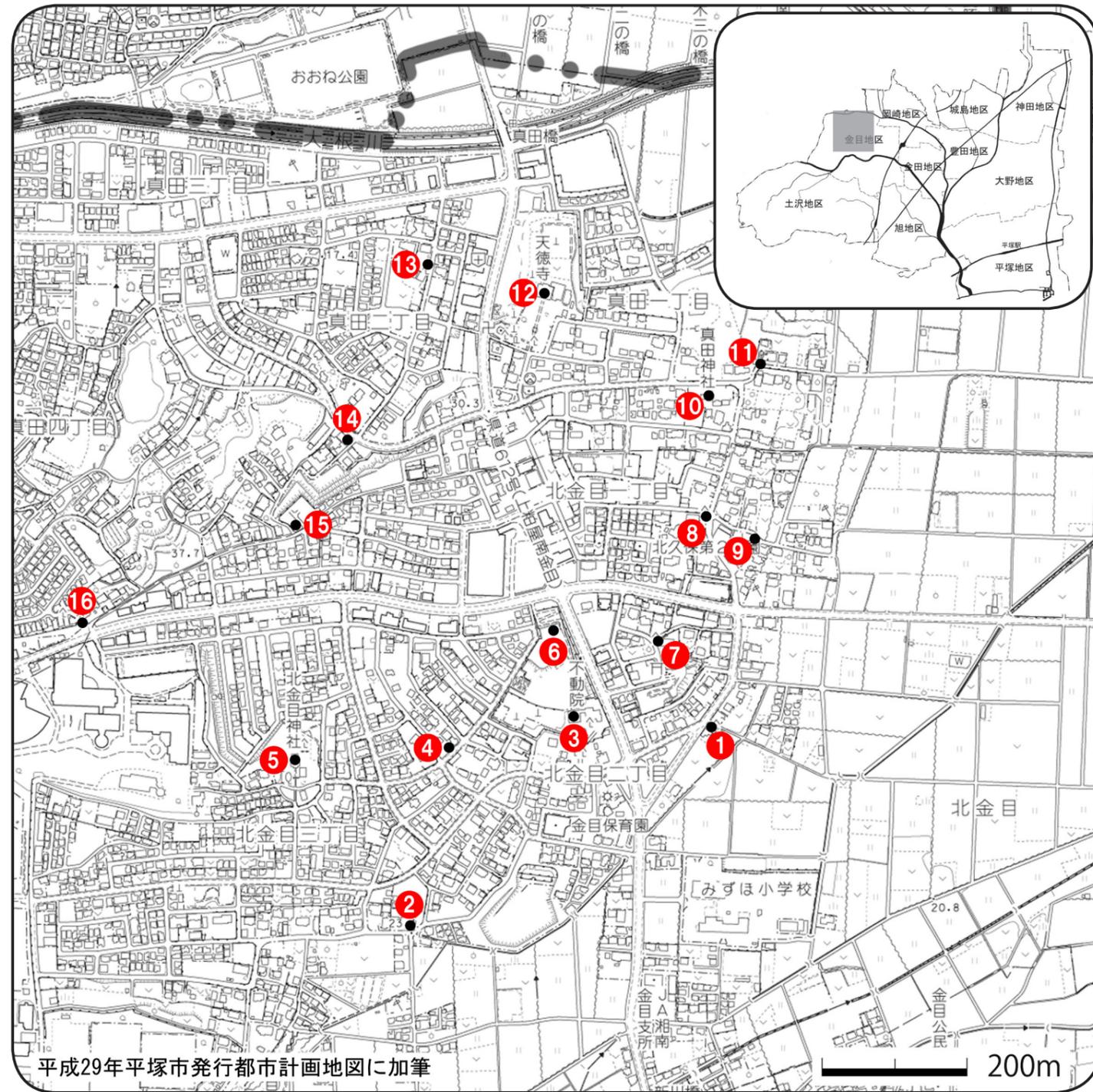
神明鳥居(岡崎神社)



明神鳥居(駒形神社)

北金目・真田の石仏所在地と主な石仏

番号	名称	住所	主な石仏
1	柳川家稲荷社	北金目 418 南	稲荷、題目塔
2	大久保三叉路路傍	北金目 3-13-8	石祠、道祖神
3	不動院	北金目 2-14	地蔵、六地藏、廻国塔、庚申塔、巡拝塔、宝篋印塔他多数
4	中久保路傍	北金目 2-20-23	道祖神、道標
5	北金目神社	北金目 3-17	石祠、地神塔、富士講塔他
6	塚越古墳	北金目 2-15	題目塔、馬頭観音多数他
7	北久保三叉路路傍	北金目 2-6-2	道祖神
8	北久保十字路路傍	北金目 1-3-28	道祖神
9	北久保共同墓地	北金目 1680	光明真言塔、観音、庚申塔
10	真田神社	真田 1-4	鳥居、奉納塔、道祖神



平成29年平塚市発行都市計画地図に加筆

番号	名称	住所	主な石仏
11	宿三叉路路傍	真田 1-3-5	道祖神
12	天徳寺	真田 1-14	結界石、六地藏、地蔵、観音、奉納塔、火壇、大日如来、庚申塔他多数
13	久保路傍	真田 2-14-28	道祖神
14	原路傍	真田 4-1-13	地蔵
15	原路傍	真田 4-2-24	道祖神
16	ウッドパーク路傍	真田 4-7-83	馬頭観音多数

※当ガイドマップに記載されている石仏の基数は令和3年集計時点のものです。

石仏めぐりを行う場合の心掛け

石仏は、古来より多くの人々がさまざまな願いをこめて手を合わせ祈ってきたものです。今でも信仰の対象とされているものも数多くありますので、見学に当たっては、敬いの心を持って接しましょう。

また、お寺や神社など石仏の管理者がいらっしゃる場合は、石仏を見学する旨一声かけてから見学しましょう。

平塚の石仏めぐり(12.北金目・真田編)

発行日: 令和5年11月

編集: 石仏を調べる会

発行: 平塚市博物館

住所: 神奈川県平塚市浅間町 12-41

電話: 0463-33-5111

大久保路傍の道祖神 (地図番号②)

左の男神は目じりをつりあげ口への字に曲げ、右手に杖を持っています。右の女神は目じりをさげたおかめ顔で笑い左手に御幣をかついだ姿です。互いに寄り添い肩に手をまわし共に着衣を細紐で結んでいます。

明治38年(1905)造立の双体像で、道の神である猿田彦命とその妻天鈿女命とされています。

もとは北金目神社の参道にあり、区画整理の際オミタラシ池の跡地に移されました。



双体道祖神 (明治38年)

不動院の石仏(1) (地図番号③)

不動院は弘法大師を開山とされ、真言宗で本尊は不動明王です。境内には多数の石仏が安置されています。

地蔵 参道入口から程近い右側に地蔵菩薩が祀られています。

かつて菩薩の頭上に地蔵菩薩を表す梵字「𑖀」と長い錫杖の左に「萬治二己亥季」と刻まれていましたが、現在では剥落しています。江戸前期の万治2年(1659)に造立され、市内の地蔵菩薩では5番目に古い貴重な石仏です。



地蔵(万治2年)

六地蔵・庚申塔 本堂前の木立の中にある塔は灯籠でなく石幢です。石幢は寺の須弥壇に下がる細長い幢幡を、6組や8組に合わせた形が石造物になったものです。6面の幢身正面に「庚申」と下部に三猿が彫られています。上に仏像を安置する厨子を原型とした龕部があり、内部は空洞ですが外6面に六地蔵が見えます。元禄13年(1700)の造立です。

石幢型六地蔵庚申塔は珍しく、市内では上吉沢延命寺のものと2基のみです。



六地蔵・庚申塔 (元禄13年)

宝篋印塔 上記庚申塔の西に2.5mを超す宝篋印塔が3基並んでいます。宝篋印塔は宝篋印陀羅尼経を塔内に納め、その功德を願って建てた塔です。

右の明和2年(1765)の塔は、寺子屋の教え子が亡くなった師匠で、前住職の泰範を供養するために建てたものです。中央と左の塔は、亡くなった親族をそれぞれ供養するために造立されています。

3基とも塔身四面に正面から左へ梵字で「𑖀



宝篋印塔 (左寛政8年、中央明和9年、右明和2年)

不動院の石仏(2) (地図番号③)

サリ-アクワン ほうしやう 𑖀 𑖀 𑖀。宝生、阿弥陀、不空成就、阿闍の各如来を表しています。その下に「寶篋塔」とあります。

廻国塔 宝篋印塔の真南に高さ1.2mの廻国塔が2基並んでいます。廻国塔は大乗妙典と呼ばれる法華経を全国66ヶ国に一部ずつ納める目的で巡礼したことを記した塔です。



右の塔は延享元年(1744)、左の塔は宝暦13年(1763)に造立。2基とも正面に梵字で「𑖀(阿弥陀如来) 𑖀(観音菩薩) 𑖀(勢至菩薩)」

「奉納大乗妙典六十六部供養塔」とあります。弘法大師 本堂左側の墓地入口右の小さな石室内に、真言宗の開祖である弘法大師坐像が祀られています。像は小型ですが彫が優れ、左手に念珠、右手に金剛杵を持っています。

不動院は、大師が大同(806~810)の頃相模国を巡錫された時、暫く草庵を作って住んだ跡と伝えられます。



弘法大師(延宝5年)

北金目神社の石仏 (地図番号⑤)

古くは熊野社といい北金目地区の鎮守として祀られ明治9年に北金目神社と改称されました。

地神塔 地神信仰に基づいて文化4年(1807)に造立された石塔です。

正面に「天社神」、裏面に「祭主天社神道□□□」と地主柳川氏2名、右面に紀年銘と地徳 竹之内 中北講中の銘がそれぞれ刻まれています。

天社神と彫られた地神塔は、隣の秦野市では地神塔の6割強の59基ありますが、市内では2基のみです。

浅間大神・富士講碑 この塔は高さ3.2m、正面に「浅間大神」とあります。

塔を建てた扶桑教は、浅間信仰に基づく富士講集団が統一された宗教で、明治8年に設立されています。

台座には扶桑教の教導職である柳川藤左衛門氏を筆頭に29名の名前が刻まれ、明治11年(1878)の造立で、北金目全体で組織され大正時代まで富士登山が行なわれていました。

隣には同じく藤左衛門氏の富士登山二百二十度達成を記念して大正7年(1918)に建てられた、富士講碑があります。



地神塔(文化4年)



浅間大神・富士講碑 (明治11年)

真田神社の石仏 (地図番号⑩)

真田神社の社名は、江戸時代は牛頭天王社でした。牛頭天王はインドの祇園精舎の守護神であり除疫神でもあります。7月9日(現在は7月の第2日曜日)の例大祭は、真田のお天王さんと呼ばれ、市内はもとより、東は鎌倉、北は相模原、西は小田原までの広い地域からの参拝者で賑わいました。

鳥居 この鳥居は明神鳥居で花崗岩製の立派なものです。向かって左の柱の裏と根元には「文久癸亥年六月」、下部に「石工 大坂炭屋町見かげや新三郎」と刻まれ、添碑から次のことがわかります。

この鳥居は瀬戸内海付近の花崗岩を利用して、大阪の石工が製作し、大阪から船で三浦半島の浦賀に運び、さらに船で平塚の須賀湊へ。須賀から真田村まで、中原、豊田本郷、宮下、小嶺、平等寺、矢崎、別名、北大繩、西海地、大畑、丸島などの村々が協力して運んでいます。

浦賀から須賀までの運搬、須賀湊での水揚げ、そこから真田までの村々の運搬、鳥居の設置作業の石工、鳶方など全ての費用を各担当の人々から寄進されています。

真田の牛頭天王社は、広範囲の人々から篤い信仰を受けていたことがうかがえます。



鳥居(文久3年)

天徳寺・与一堂の石仏(1) (地図番号⑫)

天徳寺は曹洞宗の寺院です。境内の与一堂には石橋山の合戦で討死した真田与一の本像が祀られています。8月23日には住職が経を唱えて護摩を焚き、参道では松明が焚かれます。

結界石 修行の場である寺院と俗界を区切る標石で、曹洞宗など禅宗系の寺院の門前に建てられています。

「葦山山門に入るを許さず」と読み、葦(ニラ、ニンニクなど香りの強いもの)や酒を摂取して山門内に入ることを禁じています。かつては明和6年(1769)建立の結界石がありましたが、平成23年(2011)の境内整備に伴い立て替えられました。



結界石(明和6年)

玉垣 昭和51年(1976)に作られました。

玉垣に刻まれた奉納者名を見ると、個人名では平塚市や秦野市など近隣の人が多いですが、横浜松明講や千葉富津松明講、藤沢亀井野講中、藤沢西俣野講中、鎌倉長谷新宿講中、鎌倉坂ノ下講中とあるのが目を引きます。

真田の与一さんとして親しまれ、広い信仰圏を持っていたことがわかります。



玉垣(昭和51年)

天徳寺・与一堂の石仏(2) (地図番号⑫)

子安観音 子供を抱いた観音坐像です。微笑みをうかべ慈愛に満ちた眼差しで子供を見つめています。子供の顔が残っていないのが残念ですが、母親と視線を交わしていたことでしょう。

銘文からは母と子の供養のために建てたことがわかります。子供は文久3年(1863)没で、「玉水孩子」とあることから2、3歳で亡くなっていることがわかります。母親は三ノ宮村織右工門娘の兼で、4年後の慶應3年(1867)に亡くなりました。



子安観音(慶応3年)

奉納塔 「地形助力連名単」とあります。元治元年(1864)与一堂を建てるために高さ1丈5尺(約4.5m)、縦23間(41.9m)、横20間(36.4m)の土壇を築きました。

そのとき人力を出して協力した近在の30ヶ村、約400人の助力者の名前が刻まれています。

村名を見ると伊勢原市域を含む旧岡崎地区の村々がいちばん多く、ついで旧大根村、旧金目村の順になります。与一堂の建立は当時としては大事業だったことでしょう。



奉納塔(元治元年)

庚申塔 笠付の庚申塔で寛文9年(1669)の造立です。

三猿は腕や脚が短くふくよかで子猿のようです。正面には「奉造立庚申供養石四面塔」とあります。

4つの面の上部には山王二十一社の本地仏を表す種子(仏・菩薩の象徴として書き表す梵字)が配され、庚申信仰と山王信仰との結びつきがうかがえます。

二十一仏の種子を持つ庚申塔は市内に3基ありますが、すべて寛文年間(1661~1716)に建てられています。



庚申塔(寛文9年)

ウッドパーク路傍の馬頭観音 (地図番号⑯)

真田のウッドパークの路傍に、馬頭観音4基と馬頭観音像と推測される像の一部が横に並んで祀られています。

3基には櫛型の文字塔の正面に「馬頭観世音」が刻まれています。中央は頭上に馬頭のようなものを戴き、両手で馬口印を結んだ馬頭観音像です。4基には施主名があり、左から2基目には「馬名秋月」と刻字されています。亡くなった愛馬の供養のために、馬頭観音が造立されたことがうかがえます。



馬頭観音群